

平成 25 年度 第 1 回 生体影響調査研究委員会 議事録

日時	2014-6-17 10:00~12:00	作成	伊藤	前回	—
場所	第 8 高島ビル 3 階 実技講習会場 講師控室				
出席者	出席：清水委員長、相澤委員、角田委員、小西専務理事、元木事務局長 欠席：神山委員、矢野委員、東委員、森本委員、高田委員、工藤委員 (順不同、敬称略)				
議 事	1. 第 2 回日本繊維状物質研究学術集会について 2. 委員会の趣旨説明および今後の進め方について 3. その他				

議 事 内 容

第 1 回生体影響調査研究委員会の開催に際し、清水委員長の挨拶の後、議事に入った。

1. 第 2 回日本繊維状物質研究学術集会について

資料に基づいて小西専務理事より、第 2 回日本繊維状物質研究学術集会について説明があった。一般研究発表と事例研究発表に関しては、(一社)日本繊維状物質研究協会の各委員会からも演題を出してもらうようにしているという追加説明があった。

シンポジウムと特別講演について、次回以降も各委員会からの要望をテーマに加えることが確認された。また、角田委員より産業医の研修の単位にできるようにしてほしいという要望があり、今回は申請が間に合わないので、次回以降検討することとなった。

2. 委員会の趣旨説明および今後の進め方について

(1) (一社)日本繊維状物質研究協会の他の委員会について

小西専務理事より既に開催されている、(一社)日本繊維状物質研究協会の他の委員会について説明があった。

- ① 機関誌編集委員会では機関誌『繊維状物質研究』が創刊される。
- ② 計測技術等調査研究委員会では過去の文献を調査し、整理する作業が開始されている。
- ③ 環境影響調査研究委員会と計測技術等調査研究委員会との合同でセラミックファイバーに係る現場調査をしたいという意見がそれぞれの委員会から出ている。これまで、製造現場の調査はされてきたが、使用(施工)現場での調査はされていないので、両委員会で共同調査を進めていく。

(次ページへ)

④ 生体影響調査研究委員会においても、他の委員会と同様に過去の文献を調査することから始めるのが良いのではないかという意見が出された。これまでもアスベストについては多くの文献調査がされてきたが、人造鉱物繊維についても同様な調査をする必要がある。そのため、最初は各委員の目に留まったもの、各委員がされた研究に関するもののうち、生体影響に係る文献を持ち寄ることから始めていくこととなった。

(2) 今後の進め方について

小西専務理事より、生体影響に関する調査研究については多額の費用がかかる場合が多いので、研究費（委託費）を支給してもらえるように、研究機関の登録をする予定である旨の説明があり、入札制度に参加できる資格をとる手続きを進めることが確認された。

3. その他

(1) 委員の追加について

相澤委員より、川崎医科大学の大槻先生を委員に加えてはどうかという意見があり、了承された。新たに委員会の名簿を作成し、各委員にメールで送信する。

(2) セミナーについて

今回のセミナー（時期は未定、前回は平成26年1月実施）の題材、テーマを提示してもらうこととなった。

(3) 次回委員会について

第2回委員会の日程調整を行い、平成26年9月19日（金）10時から12時に開催することとなり、場所は決まり次第連絡することとなった。

以上

【配布資料】

第2回日本繊維状物質研究学術集会 開催のご案内

第2回日本繊維状物質研究学術集会について

第2回日本繊維状物質研究学術集会の参加申込状況について

追加資料：機関誌『繊維状物質研究協会』創刊号目次（初校）